

資料 6

家庭で乳幼児を育てている保護者に対する グループヒアリング調査結果

目 次

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 調査の実施概要..... | 125 |
| 2. 調査結果の要旨..... | 126 |

1. 調査の実施概要

調査目的	保育ビジョンの策定にあたり、保育園や幼稚園に通わず、家庭で乳幼児を育てている保護者の子育ての状況、子どもの育ちや子育てしやすくするために必要としている支援等について把握する。	
調査方法	グループヒアリング調査	
対象グループ	第1回 2歳4か月～2歳9か月の子どもの 母親:7名	第2回 6か月～2歳2か月の子どもの 母親:9名(含む外国人2名)
実施日時	平成19年1月12日(金) 11:00～12:45	平成19年1月19日(金) 11:00～12:30
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てで苦労していること・困っていること ・子どもの育ちのために・子育てしやすくするために、必要と思うこと 	

2. 調査結果の要旨

(1) 第1回ヒアリング:「子育てで困っていること・必要な支援について」

◆養育サポートについて

○家事援助サービス

・家事援助サービスがあるといい。両親など気軽に頼める人は近くにいないので、自分の調子がちょっと悪いとき、時間がほしいときなど、家に来て2~3時間みてもらえると、1か月に1回でも楽。4~5か月のときはおむつがたくさん必要で、トイレットペーパーも買うときなど、ベビーカーを押して、とても大変だった。一時保育は預けられるのは1歳くらいからだし、6か月くらいの子どもを連れて外に出て帰る、というのは手間、負担。

○緊急一時保育・一時保育

・現在、2人目を出産間近で、実家（埼玉）に帰る予定だが、文京区の緊急一時のシステムは、1か月間、3つの保育園で各3人までしか預けられない。そのことを知らず、緊急一時保育に申し込みなかったら、家族が遠くにいる人は、上の子どもも含めて自分ひとりでみることになる。私が風邪をひいたりしたら、子どもも私もイライラして大変な状況になると思う。その日に言えば、半日でも1日でもみてくれるところがあるといい。

・台東区では、2か月間くらい、1日1000円前後でみてくれるシステムがある。そういうサービスを利用すると子どもも楽しく、親もゆっくり下の子をみることができ、健康的な子育てができると思う。働いているママさんだけでなく、子どもを産んだ後やつわりの時期など、高額でなく低額でみてくれるシステムがあるとよい。

・文京区の一時的保育は高い。自分は働いていないから2500円は大きい。2回利用したら洋服が買えると思ってしまう。どうしようもない場合は仕方がないが、息抜きのためには利用しがたい金額。息抜きできる時間が必要だが、自分がみればただ、と思うと結局息抜きはできない。

・両方の両親とも都内に住んでいるので来てもらうこともできるが、歳をとってきている。これからは「ちょっと助けて」と言えなくなってくるので、一時保育を充実してほしい。

・5日前に登録しないといけないのでは、緊急一時保育になっていない。夏に引越しをした際、両親も手伝いに来てくれなかったし、主人も仕事が忙しかったので、前日1日だけでも4時間くらいみてほしいと思い、緊急一時保育を利用しようとしたが、病気が冠婚葬祭でないとだめと言われた。目白台の一時保育所を紹介されそこに登録をと言われたが、まだ5日前だったが、土日は含まない5日前ということで登録できなかった。結局、徹夜して子どもを寝かせつけながら準備をした。結果的に対応できたからよかったが、それで倒れていたらどうするのかと思う。

・子どもが0歳児の一番手のかかる時期に、私は3回病気になった。そのときは、主人の会社が近く、すぐに戻って来てくれたのでなんとか乗り切れた。これまで一時保育、緊急一時保育など区のサービスを使ったことはない。みんなの話を聞いたり、そこまでしていいものやらと自分の中で歯止めがかかったりして…。ただ、サービスが使いやすいものであれば、もうちょっと気持ちも変わったと思う。病気などで育児できないことで不幸になるのは子ども。例えば、近くの保育園にその日の朝や前日電話すれば、受け入れてくれる体制があれば、すごく気持ち的にも楽になると思う。他区では、保育園全園で緊急一時保育を実施しているところが4区くらいある。文京区は3園だけ。なぜ文京区ではできないのかと、いつも主人とも話をしている。

・急なときに支援してくれる人がいない。母の時代は隣に鍵を預けて、「今寝ているからちょっとみていて」ということもできたが、今は隣にどんな人がいるかわからないし、わかっていてもちょっと怖かったりして頼むことはできない。まちのコミュニティもできていないので、頼れるマンパワーが近くにいない。

○2人目以降の妊娠・出産に対する支援

・今、2人目を産むかどうかで、毎日悩んでいる。両方の両親とも大阪だし歳をとっているのも、手伝ってもらってはみこめない。また、2人目を妊娠している人の生活をみていると大変だと思う。保育園もなかなか利用できない、ということも聞いたし、自分だとどうか考えてしまう。緊急一時保育の利用や、2人目を産むときは保育園に入れる優遇措置などがあれば、考え方も違ってくると思う。迷っている人もいっぱいいるのでは。

・2人目を産むときは、1対1から1対多数の関係になるわけなので、思い切りが必要。

・2月に第2子を出産予定。両家の両親とも仕事をしているので、1人目のときは里帰りしなかった。やはり2人目となると、1人目は外に出て走り回らないとだめなのに、新生児を連れて公園にも行けないし、寒い時期に出産することを考えると、2月、3月をどう乗り切るのが妊娠したときからの課題になっている。家族だけで子育てできるかと考えると、昼間だけでも2歳4か月になる上の娘を預けようと思い、産前産後5か月間は保育園に入る資格があるということなので、12月1日からの入園手続きをしたが、待機児童がかなりいるということで、全部断られた。また、2月、3月は年度替わりなので、出産による一時的な利用だとしても、保育園の新規入園受付は制度的に一切しない、と言われた。緊急一時保育で1か月を限度に預かれるかもしれない、と言われたが、私が住んでいる目白台からは、緊急一時保育を実施している3園はどこも遠い。結局、ぎりぎりのところで認可保育園に空きが出て、2月1日から入れることになったのだが、娘をみる人がいないから、2月まではどうあっても出産できない状態にある。主人と話すのは、今の段階で保育園の利用が決まっていなかったら、不安で精神的におかしくなったかもね、ということ。緊急一時保育しか利用できず、しかもそれがしおみ保育園だったとすると、遠いので何かあってもすぐに会えないし、怖いなと思って。妊娠中をずっと上の子の保育園の心配ばかりして生活していたと思う。そういう不安がないようにしてほしい。2月1日までに産気づいてしまった場合も、すぐに子どもを預かってくれる緊急一時保育があれば、主人が帰ってくるまで上の子を見てもらうことができるが、ひとりで産気づいたときにはどうしよう、というのがあって、今からすぐに連れてきてください、というところが近くにないと、本当の意味での緊急一時ではないと、身近に感じている。今回、出産を控えなければ、保育園について保育課の方とここまで話すこともなく、待機児童が多くて大変、ということもわからなかったと思う。これでは2人目を躊躇する方も多いただろうと思う。

◆保育園について

・1人保育園に入っていると、2人、3人産んでも兄弟も預けられる。共働きだと点数が高くて、優先的に保育園に入れるが、専業主婦はポイントは低く、妊婦でもなかなか入れない。裕福だから働いていない、というわけではないのに。1回入ってしまえば制限なしではなく、年度ごとに利用の見直しをするなどしてほしい。

◆医療費の助成について

・現在は、就学前までは医療費はかからないが、他区では、中学生までなど、どんどん広がっている。だんだん病気はしなくなるが、歯科検診などにお金がかかるようになる。これからどんどんかかってくるので、医療費の助成を充実してほしい。せめて小学生までにしてほしい。それも2人目、3人目の子どもを育てることにつながるのではないと思う。

・医療機関については、救急もちゃんとしているし、総合病院もあるので、充実していてよいと思う。

◆遊び場(公園・児童館など)について

・目白台に住んでいるが、朝から夕方まで安心して遊ばせられるところがない。現在、週に1~2回、みんなで集まっている場に参加しているが、毎日行きたいくらい。今は自転車に乗っているが、ベビーカーを押して出かけるのは大変だった。充実した児童館が身近にあるといい。

・文京区の公園は遊具が少なく、充実していない。子どもも楽しくない。児童遊園はたくさんあるが、住宅地の公園は静かで怖い。住処にしている人もいるし。大きい公園に行くが、遠い。他区の公園に行ってしまう。

・教育の森公園は、小学生むけなのか夕方は混んでいるが、午前中は人が少ない。遊具がいっぱいあるのに。ベンチのまわりや遊具のまわりにタバコの吸い殻が捨ててある。子どもは拾ってしまうので、すごく怖い。

・千代田区の禁煙条例のようなものに文京区でも取り組んでほしい。歩きたばこはちょうど子どもの顔にあたる。子どもは危険を察知してよけることはできないし、やけどではすまない。

・0~1歳のときはハイハイで、公園にも行かれない。児童館は、午後は大きい子がいるから危ないと、利用時間が午前中に限られている。夏休み・春休み・冬休みは午前中も行かれない。また、お昼ご飯が食べられず、午前中で帰ってくださいと言われると、午後どこで遊べばいいのか困る。結局、電子レンジやポットやお皿が用意してある、他区の児童館に行く。新宿区ではビルごと児童館で、フロアごとに利用年齢がわかれている。そこまで完備するのは無理でも、もう少し考えてほしい。

・児童館施設が老朽化している。アスベストなどの問題が心配。子どもがハイハイしている場所は、ストッキングだとひっかかりそうな場所だし、暖房がなくガスファンヒーターで十何畳を暖めていて、寒いのに子どもは滑るから裸足にして、と言われる。電子レンジも古いものでも1台あれば、夏、保冷したお弁当を持って行き、その場でチンできるのに、お弁当を持って行くこともできず、外で買ったりしている。そういう不便がある。

・在宅で子どもを育てている家庭は多いはずなのに、一生懸命外に出てきてコミュニケーションをとっている人は決まっているというか、いつも顔ぶれがいつしよ。その人たちに会うと、合言葉のように「どこで遊んでいるの?」と言っている。返ってくる言葉は、千代田区、新宿区、豊島区など。「私たち、ジプシーのようにさまよっているよね」という話になる。豊島区では、一時保育のほか、遊具も充実している、母親同士がレクリエーションできる場もある、ママサークルをつくれる場もある複合施設として子ども家庭支援センターがあるが、文京区にはない。予算をとる、税金を投入するのは難しいかもしれないが、そうした子ども家庭支援センターのような施設を、廃校にする小学校などを有効利用してつくってもらえたら、ぜんぜん違うと思う。

・文京区の児童館は使いづらい。「畳の部屋がありますから」と言ってくれるが、2歳くらいになると畳の部屋では遊ばない。ホールに出たがるのだが、お兄ちゃんたちが遊んでいる。児童館は学童のために建てられた施設だから、私たちが無理を言うのも引け目があり、言いづらい面もある。

・児童館ジプシーになっている私たちを救ってほしい。文京区の児童館に他区の人が来ていることはほとんどない、魅力がないのだと思う。他区の施設を利用する場合にはいい顔をされないこともある。税金を払っているわけではないので、向こうとしては使う権利はないですよ、ということになる。それは当然、仕方ないとは思いますが。

・年齢に応じて、安心して1日遊べる場所がない。「午前中ここの施設で遊んで、ご飯を食べたら、午後はどここの幼稚園の〇〇会に行こう」というのが1日の過ごし方で、はしごしないと1日が過ごせない。1日中さまよっている。自転車で坂道を移動しているので、一度雨がふると友だちに会えないし、子どもと2人でもんもんと過ごすことになる。

◆交流(コミュニケーション)・仲間づくりの場づくりについて

・夫がフリーランスで仕事をしており、子どもが生まれてしばらくはちょうど時間があるときで、水道児童館が近くにあるが、去年の6月まで行ったことはなかった。ふみちゃんのおうちには、友人が連れて行ってくれたのだが、職員の方から「おすわりのできない子はまだ来ちゃだめ、小さいのでまだ来るのは早い」と言われてしまい、それ以来、足が向かなくなかった。それで、夫に交代でみてもらったり、小石川後樂園の年間パスポートを買い、遊びに行っていた。友だちはいなかったが、主人がいたから助かった。6月にたまたま出会った人から「児童館に行こう」「幼稚園において」と誘われ、行くようになったら、子どもも楽しいので「行く、行く」と言い、それで初めて子どもから開放された。初めてのところに行くのは勇気がいるのに、ふみちゃんのおうちでは、最初のきっかけのときに、親切なのかもしれないが、あまり対応がよくないと感じてしまった。

・児童館に初めて行った日も、たまたまみんなでお出かけに行った後で写真を配ったりしていて、ひとりぼっちになってしまった。初めて来た人の自己紹介をする機会はないし、職員さんによってはみんなに紹介してくれる人もいるが、ない場合もある。私も、初めての人には声をかけてあげたいと思うが、すーっと帰ってしまう人も多く、外で会ってもなかなか声はかけられない。自分も拒否された経験があるので、逆に拒否されたように感じて児童館に来なくなってしまった人をみかけると、「いらっしやい」と言ってあげたいがなかなか言えない。こうやって集まると、子育て世代はいっぱいいるんだ、と思うが、普段はわからない。

・近所に子育て世代がいるかどうか、同じマンションにいるかすらわからないのが現実。児童館で会って話して初めて、近所であることがわかることもある。そのくらい近所づきあいが希薄。

・地域に根付いた子育ての場がないから知り合う機会もないし、まわりのことがわからない。

・お祭りなどの行事も町内でやっているが、あまり知らされていないので参加できない。マンションに住んでいると町内会費を払っていないので通知は来ない。まち自体の関係も希薄だから、マンション住まいではなおさら。

・私が住んでいるマンションは規模が小さく、4組くらい週に1回くらい会うが、外に出ているのは自分だけ。1人は公園でだけ遊んでいて、あとの2人は全く外に出ない。行ってもなかなかなじめないよう。子育てをしていると同じ悩みを抱えているので友だちになりやすいと思うので、そういう場所があればと思う。小日向台の児童館を利用しているが、場がもったいない。なんとかお昼のスペースをつくってもらったが、それでも2~3時には帰ってくださいという感じ。2~3時くらいからまた会話が盛り上がってきて、色々な悩み相談も出てくるのに。お昼の時間はすごく重要な時間だと思う、情報交換ができるなど。

・水道児童館は、お弁当を食べる場所はないし、食べていいかどうか書いてないし、聞けない。

・久堅児童館の0・1歳の集まりに何度か行ったが、もともとの輪ができていて、初めて行っても紹介もない。受け入れ側の体制を考えてほしい。私は大塚ママができて、ようやく地域の近くの友だちに会うことができたが、それまでは同じ人とばかり遊んでいた。

・フレッシュママのような場・機会がいっぱいあるといい。みんなそこで知り合い・顔見知りになっているので。

・フレッシュママがあるから来てください、といっても、バスでとなると、2~3か月の子どもを連れて行くのは大変。また、月1回でなく毎週あるといい。それが楽しみだったので。

・フレッシュママで友だちができて、月1回しかないのも、各お家に集まろうとなるが、やはり限界がある。誕生会、クリスマス会、七夕会などをみんなですりたいと思うのだが、場所がない。

・地域センターも、場所は貸してくれるが飲食禁止でお祭り騒ぎはできない。パパも来れていい雰囲気になると思うのに。せめてもう少し集まれる場を貸してくれると、集まりやすい、遊びやすい。

・子ども家庭支援センターのような大きいものがあれば、すべてそこに集約できてよい。緊急一時保育も全園にあるとありがたいが、全部が全部保育園に、では保育園もアップアップになってしま

うと思う。区にセンターが2か所くらいあれば、今までの悩みは解決されるという気がする。

- ・高齢の方の病院や施設利用などとあわせてでいいので、巡回バスがあるといい。
- ・シビックセンターにあるびよびよひろばは、狭いし、部屋の感じが暗い。狭いから子ども同士が接触してしまって、1歳になるくらいまでが限度。このビルにあれだけのスペースしかないというのはもったいない。アクセスがいいところなのに。
- ・私たちはまだ子育て2年目、3年目。子どもが育って行くのと親が育つのは表裏一体だと思う。母親側からこういう施設を増やしてほしい、緊急一時を増やしてほしい、ということ言うと、昔はそうでなかったとか、親の便宜だけ図って子どもはどうなの、という意見もあると思うが、親が育つのと子どもが育つのはいっしょだと思うので、そこを切り離してはいけないと思う。こういうふうに話しているときに親が育つ、コミュニケーションする場を通して、「こういう考えもあるよ」ということで親も育ち、それがまた子どもにも返ってくると思う。もっとコミュニケーションの場を重視して考えてほしい。今は集まる場所もない状態だし、決まったグループだけで入園前までいってしまうのはもったいない。地域にはいいお母さんがいっぱいいるので。

◆子育て支援策全般について

- ・自分は高齢出産だったが、やっぱり体がきつい。産むのは産めるが育児がきつい。そういう人は自分くらいかと思ったが、顔ぶれをみているとそんなに年齢は変わらない。文京区のお母さんの年齢は全体的に高いと思うので、他の区に比べて子育て支援施策を充実してほしい。文京区のママさんは真面目で、母乳だけでなど、育児に一生懸命がんばっている人が多いので。
- ・教育がいいということで文京区に移り住んで来る人もいるが、文京区で産む人はどうするのか。都心回帰でマンションも増え、子育て世代も増えてきているので、支援を充実してほしい。小学校にあがるまでの支援が足りないと思う。
- ・これまで子育て支援というと働くお母さんへの支援だった。これからは在宅育児に関する支援を充実してほしい。在宅なのだから子育てが仕事、と言われればそれまでだが、24時間365日同じ相手と3年間いてごらん、と言いたい。働くお母さんは保育園に子どもを預け、お金は払っているにしても、その分自由な時間を得ている。私たちはコーヒー1杯飲むのにも苦労している。
- ・私たちはそもそも社会との接点がない。働くお母さんたちは社会との接点があるので、その点で不平や不満が表に出やすいのでは。私たちの不満はこういう場がないと訴える機会がない。

◆幼稚園について

- ・3年保育を実施する区立幼稚園を増やしてほしい。
- ・児童館での話題は幼稚園をどうするか、ということばかり。坂がないし、近いのは区立幼稚園なので、区立幼稚園に入れたい人が多い。私立幼稚園が定員割れでつぶれては困るという理由で、区立園を増やせない、という話を聞くが、それはどうなのかと思う。区立幼稚園は定員が少ない。小日向台町幼稚園は兄弟枠の関係で、4人しか募集しなかった。
- ・青柳幼稚園は2年保育だが、10人以上集まらないとその年度はスタートしないらしい。区立なのだから、行きたい人がいれば何人でも運営するのが当たり前ではないか。
- ・区立幼稚園でも子育てひろばのようなものがある。それもいいが、まず幼稚園運営をきちんとしてほしい。
- ・児童館の仲間で結託して、「今年はこの幼稚園に申し込もう」としないと、幼稚園運営自体がされない可能性がある。みんなの意向を聞かないと幼稚園が決められないこと自体、おかしいと思う。
- ・私立は3年保育が多く、みんな早く手を離したいので私立幼稚園に入れてしまう。4歳から区立保育園に編入という子どもも慣れているのにかわいそう。そういう人もけっこういるらしいが、幼稚園はとりあえず3歳は私立に入れておくか、というところではないので、編入するというのでは

意味がない。区立を全部 3 年保育にすればいいのでは、と思ってしまう。しかも、人数が少ないと運営されないなんて、まったく意味がない。

・後楽幼稚園に入れようと思って、3 歳児の間 1 年を過ごしているのに、受け入れない、ということになったらどうするのか。また一から幼稚園探しで、今度は幼稚園ジプシーになってしまう。悩みはつきないが、そんなことで悩まないといけないのはおかしい。9 月から 11 月は、幼稚園の問題でみんなぴりぴりしている。

・区立幼稚園は近いので、区立幼稚園に入れたい。小学校といっしょになっているところもあり、小学校にあがったときも友だちと馴染んでいてよい。

・それが地域、地域に根ざした教育だと思う。遠い幼稚園に入れて、小学生になったら学区があるからと近くの小学校に引き戻されるのでは、地域のつながりがない。中学校は希望で行けるので、またぶちっと切れてしまう。何か一貫性がない。その一方で、小石川中学と小石川高校がくっついて一貫性を求めているたり、どこに一貫性を求めているのか、区がやりたいことがわからない。住んだ地域で、安心して幼稚園から中学校まで行けるようにしないと。いつも次どこに行こう、とそればかり悩むことになる。

・知り合いは、上が小学校で下が 2 歳。将来礪川小学校がなくなるが、金富小学校も 2 クラスなので礪川と合同になるかもしれない。下の子のことを考えると、これからどうなるかわからない学校に行くより、マンモス小学校に行った方がいいから、4 月から引っ越すということだった。安心して幼・小・中まで行けるようにしてほしい。

・私立に入れるわけではなく公立に行くのに、進路に迷うのは困る。常に行き先を見極めないと、安心できないしあぶれる可能性がある。早く動かないと、という脅迫観念がある。

・子どもが減っているからこそ、区立幼稚園を充実してほしい。文京区は教育がすごい、と言われるが、現実には幼稚園すら困っている。

(2)第2回ヒアリング:「子育てで困っていること・必要な支援について」

◆相談・情報について

・子どもを産んでから、どこになにがあるのか、どこで遊ばせたらいいのか、どこに行ったら同じくらいの月齢の子どもをもつお母さんに会えるのか、子どもが0~1歳の間はキリキリして過ごしていた。そういうときに駆け込み寺的な、相談できる場が身近にほしい。子どもを産んでからは体調を崩すことが多くなったが、夫も仕事が忙しく、そういうときにどうしたらいいかわからずとても困った。あらかじめ相談できるところがわかっているとありがたい。

・私は保健師さんに電話して聞いている。親身に相談にのってくれる。私は子どもを産む前に体調が悪くて、不安定な時期があった。そういうときは保健師さんに電話して相談にのってもらった。保健師さんは忙しくて、つかまらないこともあるので、ホットラインのようなものがあってもいいのかなと思うこともある。

・他の区では、どこどこで不審者がいたというメーリングリストによる情報発信があるらしい。子育てについても、そういうものがあればいい。

・メールなら携帯を使った情報提供がいい。携帯で見れるか、地域の掲示板とか、紙のものがいい。パソコンに向かう時間はなかなかとれないので。

・子育て家庭向けの区報があったらいい。区報は色々なことが書いてあって見にくい。シニア向けの話題が多く、子どもの情報が少ない。

・情報は、児童館でママさんから聞いたりというくらい。サービスはよくわからない。児童館に行くようになってわかるようになった。

・新宿区では区のサービス以外のものも含めた、いろいろな子育て関連情報が載っている冊子がある、という話を聞いた。文京区でもぜひそういうものを作ってほしい。

・悩みはたくさんあるが、保健師さんからは、話を聞いてくれるより、言われてしまう。アドバイスをたくさんしてくださるが、それよりも、こっちの話を聞いて、いっしょに考えてくれる人がほしい。話してしまえば、楽になるので。相談することに対して、10くらいの課題を与えられてしまうことがあるが、それだとかえって不安になり、相談しなければよかった、となってしまう。相談の場では、私たちの話をじっくり聞いてほしい。自分の子育てをほめて認めてもらいたい。そういう機会を健診のときなどにつくってほしい。けなされるより、ほめられたい。方向を示してくれるのもいいが、まずは、ほめて、安心や励ましがほしい。そうであれば、親も励みになる。

・保健師さんでも子どもがいる・いない、年配・年配でないがあり、人によってアドバイスや態度がぜんぜん違う。保健師さん教育も必要。私たちは聞いてほしい、ストレスがたまっている、といことを前提に話をしてくれると、すかっとして帰ることができると思う。

・保健師さんに、実はいろいろ相談したいことがあるのだが、電話も苦手だし、直接ならなんとかなるが、行かないとできないから相談できない状態。勇気を出してお母さんに話しかけて聞いて…という感じで情報を得ている。情報はなかなか入手できない。外国人なので電話は苦手。

◆養育サポートについて

○緊急一時保育・一時保育

・子どもを産む前に想像していたのと違い、現在は自分の時間が全くもてない状況。自宅でできる仕事をフリーでしているが、子どもを産んだ後でも少しでもいいから仕事を続けていないと、復帰が難しいと感じている。保育所に預けることは考えていなかったが、一時的に預かってくれる保育場所があるといい。一時的な保育場所が自分の仕事等にあったところと思っている。

・週2日程度の日数で預かってもらえるところを探しているが、今は預かってもらうところが見つからない。結局、保育園にも応募したが、フリーであるがゆえに、条件的には難しい状態にな

っている。

・フリーで仕事をしており、自宅で作業できたらいいと思っているが、子育てをしながらだと時間が取れず、仕事はできない。軽く家で仕事してみたが、子育てをしながら仕事をするのは、体力的に困難。しかし、ずっと保育園に預けるという決心はついていない。私の場合は、1日のうち2～3時間程度、保育してもらえる場所で、仕事にも対応できる。そうした予約ができる一時保育の場所がほしいと思っている。預けないで家で仕事するのはきつい。

・一時的に預けられる先を確保すること、生活に補助がないことをどうにかすること（児童手当もほんの少しである）、そのあたりをどうにかしてほしい。緊急一時保育は冠婚葬祭などの理由に限られている。気軽に預けられる場所がないと、大変という気持ちがあり、気持ちの面であせってしまう。

・都会は、実家とはなれて暮らしている家族が多い。夫と2人で子どもを育てるとなると、本当に大変。自分が風邪を引いたときとか、大きな病気ではないときに、子どもは休ませてくれないし、夫も仕事は休めない。簡単に預けられるところがあればいい。

・託児はとても大事と考えている。1日中ではなく、半日でもいいから託児できるところがほしい。半日ならば、もっとたくさん子どもが入ることができるのではないかな。

○2 人目以降の妊娠・出産に対する支援

・仕事をしないと、環境は裕福というわけではないから、2人3人はこのままでは産めない。

◆医療費の助成について

・不妊治療に対する経済的支援もしていくべきだと思う。やっと1人産んで働こうとしているところでいっぱいなのに、2人目、3人目をつくらうなんて絶対にありえない。経済的な支援という、もっと見せかけではなくて、子どもをつくるというところから考えていかないといけないのではないかなと思う。

◆産じょく期について

・子どもが産まれてから2か月くらいは、気合で乗り切った。だれも手伝ってくれる人もいないし、今だけだからがんばるしかないと思い、がんばった。

・私は乳腺炎を繰り返したり、なかなかおっぱいが出なかったりして、週に1回くらい、子どもを産んだ病院に行っておっぱいマッサージをしてもらったり、いろいろなアドバイスをもらっていて、それでとても助かった。子どもが2～3か月のときは、どこにも出かけられないお母さんが多いと思う。私は、親も近くにいなかったんで、病院の看護師さんが親代わりようになってくれ、病院に行くのが楽しみだった。

・文京区の辺りでは、おっぱいマッサージなどは有料。入院しているときは相談にのってもらえるが、予約制だし有料だし、見ていただく、という感じでつらかった。

・私が乳腺炎になったときは、子どもを産んだ病院でないところでは、産んだ病院に相談をして、と言われ、対応してもらえなかった。

・私は逆におっぱいが出なくて、おっぱいが出るようにマッサージをしてくれるところに行ったが、30分のうち20分くらいはずっとしゃべりまくり、ずっとぐちを聞いてもらった。つらかったが、その人のおかげで乗り越えることができた。

・おっぱいの問題はけっこう大問題。出るなら出るで大変かもしれないが、おっぱいが出ないことで、母親として失格なんじゃないか、と感じてしまう。

・母乳が出づらくて苦労した。母乳をあげないと自分自身にも罪悪感があるし、まわりも何気なく「おっぱいな？」と聞くが、出ない人にとっては、プレッシャーだったりする。

◆保育園について

・保育園については、保育園が少ないという印象。保育園数、募集人数の少なさなどにびっくりしている。復帰するのに、預かってもらえないということになると、自分が追い詰められるような気がする。

・今は、保育園が一番の課題。実家や勤務先が近いため、保育園にはなかなか預けられないのではないかという不安がある。実家が近くても、親が高齢だったりして、実際には面倒をみてもらえないことがある。親に預けられない家庭の事情があっても、それを考慮してもらえないというのは問題。保育園の入園は点数で判断するのであろうが、私たち一人ひとりの深刻さを反映できていないと感じている。

・実家の近くに住んでいるには、それなりの理由がある。文京区は家賃も高いし、家を借りて住むことが大変。それで子育てしてくださいといっても、困難。親の近くに住まないと、生活面で成り立たないということもある。親が近くにいるからといって、保育園に入りにくいというのはおかしい。

◆遊び場(公園・児童館など)について

・公園で遊んでいるときに、怪しい人がいることがある。話しかけられたりなど、怖い思いを何度か経験した。子どもは公園で遊びたがるのが普通であり、安全な公園が必要。安全対策としては、見回りをするとか、とにかく何かしてもらわないと困る。

◆交流(コミュニケーション)・仲間づくりの場づくりについて

・外国人として、同じくらいの子どもをもつママさん同士でコミュニケーションできる機会がない。言葉が同じママさんたちと話せる場・交流できる場がほしい。

◆幼稚園について

・現在、苦労しているのは、文京区の幼稚園について、園の送り迎えのバスがないこと。私の場合、上に子どもがいるが、上の子の送り迎えをするにも、下の子がいるので本当に大変。園バスをつかってほしいと願っている。

◆労働環境について

・夫婦で子育てしている我が家では、夫が頼り。いつも5時半になると夫に「迷惑メール」をしている。夫は行政の仕事をしているのに残業がある。みんなのお手本になって、早く帰ってこないといけないよ、と言っている。パパは残業をしないということにすれば、本当にいいのにと思う。

・私は休職に入る前に人事部門にいたので、休業される方が復帰できない、という話を聞いたりしていたが、いざ自分のことになって、こういうものなのかと実感した。会社では、○曜日は○時に帰りましょうということをやっているが、実際には難しい。事実、いつも帰りは遅い。会社は、社会のために子育て支援する、子育てしている家族を支援する姿勢をだすべき。

・一時預かりは夫の代わりのようなもの。会社も変わらないと、夫は育児ができない。

・私の場合、上司には子どもがいないし、子育てについて困っている状況をどこまでわかってもらっているかが不安。

◆まちづくりについて

・子どもと行きやすいレストランや喫茶店などあればいい。コーヒーを1杯飲んでいる間だけでも、子どもをみてもらえるところがあるとうれしい。

・子どもを育てる基盤がない、と子どもを産んで初めて感じた。文京区は坂が多いので、幼稚園への自転車での送り迎えさえ危ないと思う。子育て支援の目線をどうしたらいいのかなと思う。自分が子どもを持たないと駅の大変さも体験できなかった。区だけの問題ではないが、なんとかしてほしいという気持ちがある。ベビーカーを押してブロックは歩きにくい。生活の基盤を整備する視点が、すべて大人の目線・大人中心で決められてしまっている。もっと子どもの目線で考えてほしい。

・文京区は坂道が多いので、ベビーカーが斜めになったりして危ない。道を整備すること、歩道を確保することが希望。

・ベビーカーを押してトイレに行きたいときは、ベビーカーもいっしょに入ってしまったほうが私も楽。公園などでも多目的トイレを整備してほしい。女子トイレでなく、多目的トイレであることが重要。

◆家族や周囲の理解・協力について

・年配の方のさりげない一言に傷つくことがある。アトピーでしっしんになっていたりと、かわいそうね、などと言われる。相談する相手がいないこともつらかった。

・おじいちゃん、おばあちゃんにも教育を受けてほしい。今は風邪でもお風呂に入れてもいいとお医者さんに言われることがあるが、逆に上の世代の人におこられたりする。

・自分の母親でもギャップを感じることもある。予防接種してくると今日お風呂に入れちゃだめよと母は言う。医者は入れてもいいと言う。育児の方法や常識もどんどん変わっているので、夫も含めて、家族教育をしないとだめかなと思う。

・うちは離乳食をおばあちゃんがチェックする。励みでもあり、ストレスでもある。離乳食を6か月から始めたのだが、おばあちゃんからは5か月で始めなさいと言われ、その1か月間は、すごくストレスがたまった。同様に、おばあちゃんは、おやつはバナナがいいというが、保健所では南の果物はできるだけ後でと言われた。でもおばあちゃんはバナナをすすめる。

・子どもに日焼け止めを紫外線対策としてぬっていたが、義理の母がそれを見て後になって言われて、そのときは「ずれ」を感じた。これからも「ずれ」は出てくるし、今もそれを感じている。

・老人会などで子どものこと、子育てのことなどを勉強してほしい。孫に好かれるための本があるくらいだから、おじいちゃん、おばあちゃんの「子どもの子育てに参加したい」という気持ちを活かすことも重要。

・子どもが生まれる1か月前に母がなくなり、夫と2人で子育てをしている。生まれた後、どうやって乗り切ったのかは忘れたが、つらかった。夫がいるとき、珍しく子どもがニコニコと機嫌のよいときがあった。そのとき、夫は「今のうちに、家事をやったら」と言った。すごく頭にきた。夫は子育てのことをわかっていない。

・夫教育をしてほしい。夫に悪意はないが、子育てについて理解してもらうのに時間がかかる。

・両親学級に夫をひっぱっていった。子育てに関する家族教育を区でやってほしい。

・家族や夫は、子育てについてわかっていない部分がありすぎる。まずは夫に理解してもらう教育が大切。

・我が家では、子育てをしていく中で夫が変わってきた。子育てをする、ということが私の仕事で、大変なことをしている、ということを知ってもらえるようになった。そうなることで、自分も子どもに優しくなれ、がんばれていると感じる。